

1. 議事日程（第9日目）

日程第 1 一般質問

1. 高橋 健君
 - (1) 上天草市地域振興買い物券「五橋」について
 2. 田中 万里君
 - (1) 市長就任後の子育て支援について
 - (2) 天草四郎を核とした観光都市づくりについて
 - (3) 副市長の選任について
 - (4) 不正経理（裏金）の調査について
 3. 小西 涼司君
 - (1) 学校規模適正化事業について
 - (2) 職員人材育成について
 4. 川口 望君
 - (1) 雇用対策について
-

2. 本日の出席議員は次のとおりである。（24名）

議長 渡辺 稔夫		
1 番 高橋 健	2 番 小西 涼司	3 番 島田 光久
4 番 新宅 靖司	5 番 川口 望	6 番 田中 万里
7 番 塩田 真一	8 番 山口 安彦	9 番 北垣 潮
12 番 堀江 隆臣	13 番 佐藤ユミ子	14 番 窪田 進市
15 番 田中 豊八	16 番 津留 和子	17 番 瀬崎 秀輝
18 番 寄口 大和	19 番 桑原 千知	20 番 渡辺 勝也
21 番 田中 勝毅	22 番 藤川 勝久	23 番 山崎 哲哉
24 番 猪塚 安親	25 番 須崎 正造	

3. 本日の欠席議員は次のとおりである。（2名）

10 番 東川 義勝	11 番 園田 一博
------------	------------

4. 会議事件説明のため出席した者の職・氏名

市 長	川端 祐樹	教 育 長	鬼塚 宗徳
総 務 部 長	川本 一夫	企 画 観 光 部 長	村田 一安
健 康 福 祉 部 長	松浦 省一	市 民 生 活 部 長	田中 義人
建 設 部 長	永森 文彦	経 済 振 興 部 長	山下 幸盛
教 育 部 長	鬼塚 憲雄	水 道 局 長	鍬田 成朗
上天草総合病院課長	大窪 直	財 政 課 長	永森 良一
総 務 課 長	杉田 良一		

5. 職務のため出席した者の職・氏名

議 会 事 務 局 長	村枝 誠二	局 長 補 佐	野崎 秀満
参 事	大石智奈美		

開議 午前10時00分

○議長（渡辺 稔夫君） 起立をお願いします。

おはようございます。

これより会議を開きます。

議事日程はお手元に配付しているとおりであります。

日程第1 一般質問

○議長（渡辺 稔夫君） 本日も一般質問を行います。

日程第1、一般質問を行います。

一般質問の通告があつておりますので、順次質問を許します。

1番、高橋健君。

○1番（高橋 健君） 皆さん、おはようございます。それでは、1番、高橋健の一般質問を行いたいと思います。私、一般質問をするに当たって、毎回いつもテーマをつくって一般質問をしているわけなんですけれども、今回のテーマは公平、平等という言葉の頭の中に入れて聞いていただいて、答えていただければと思っております。

世界的に百年に一度と言われる不況の中、また上天草市の財政再建を進める中で、21年度予算につきましては、5次査定まで行った予算づくりだとお聞きしております。その概要を見ますと、ほとんどの事業につきまして、21年度予算に関しましては削減されているのが現状で

あります。各部局とも財政課だったり、いろいろ査定の中でしのぎを削って出された予算だと認識しております。その21年度の予算の中で、今年度、幾度となく出てきたイノシシ問題、今まだ目に見えてきていない観光に対しての予算どりだとか、あと学校耐震についての予算どりだとか、議会でも出てきたことに非常に対応してある予算を組んであったかと認識しております。今から先のことを言ってもしょうがないんですけども、21年度に対して、成果はともかく、そういう予算をこの財政が苦しい中でとっていただいたということに関しては各部署様に対して厚くお礼を申したいと思っております。

なぜ、このような話をするかといいますと、皆さんも御存じのとおり、また今度改選がありますので、5月にまたここに帰ってこれればいいんですけども、ならないかもしれませんので、お礼を先に言っておきたいと思いました。

今回の通告書に基づきまして一般質問をしたいと思っておりますけれども、上天草市振興買物券、五橋について。以下は全部、五橋と表現したいと思いますので、よろしくお願ひします。五橋につきましては、既に完売ということでございますけれども、本事業についての具体的な説明をお願いします。取扱店が何店になったとか、予約期間はいつからいつまでだったのかと、あと購入者数などをよろしくお願ひいたします。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） おはようございます。お答えいたします。

本事業につきましても取り組み状況を申し上げます。今回につきましては緊急の事業になったために、購入と取扱店の申し込み受け付けがことしの1月5日から16日までの同時期で行うことになりました。また、買物券の購入で申し込みを先着順としなかったのは、多くの方に購入していただくために予約申し込みの方式を取り入れております。しかしながら、締め切り日の16日現在で買物券の購入申し込み者は561件の2,109冊でございまして、取扱店は244件でございました。

購入申し込み者が非常に少なかったので1月19日まで一応延ばしました。そうしましたところ、申し込み者が713件、2,638冊となりました。販売を1万セット予定しておりましたので、予約分を除いた残数を売りさばくために、1月25日から30日までの販売期間に1世帯5冊までという上限を取り除きまして販売しましたところ、1月30日には1万冊を完売することができております。

最終的には、延べ1,372の方が買物券を購入されております。取扱店につきましては、申し込み期限が過ぎた現在でも登録申し込みはできますけれども、現在279件の登録件数となっております。なお、2月1日から3月31日まで市内の取扱店で買物券を使用し、買物ができております。今回はこの制度について準備期間と周知期間、御利用の期間が非常に短いです。このため、市民の皆さんにお得というのをわかっていたのに時間がかかってしまいました。ですけれども、1回この買物券を御利用していただいた皆さんについては大変好評をいただいております。ありがたく思っております。

以上でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 高橋君。

○1番（高橋 健君） 準備期間と購入募集期間が一緒になったというところでありまして、今回のこの五橋の事業に関しましては、12月の議会でたしか予算を計上されて、そこで可決されて、この景気の悪い中、スピードが求められたのかと私は認識しております。地場産業の活性化、景気回復をするためにスピードが求められたというのはわかるんですけども、住民に対しての周知だとか取扱店に対しての周知期間が若干短かったのかというのは、回っていて住民の声、取扱店の声を聞くと多く聞かれます。それで、今部長が言われたように、利用されておられる方からも事業所の方からも、これはいいことだ、でもどこで使えるか全くわからないという声を、ちょうど販売が終わった後にたくさん聞いたというのが現状だということです。

今の部長の答弁の中では、最終的には1,372人の方が五橋を購入されて、地場産業に対して、地元にある企業で使っておられるというところですけども、もうたしか1回目の回収ではないですけども終わっているのではないですか。4日ぐらいに1回、このあれがもう来ていると思うんですけども、どれぐらい回収されておりますか。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） 今回、今度の月曜日で3回目の回収を行っております。金額にいたしまして3,000万円を超えております。

○議長（渡辺 稔夫君） 高橋君。

○1番（高橋 健君） 5,500万円のうちの3,000万円はもう回収されているということです。残りがまだあと20日以上あるというのにもかかわらず、もう3,000万円あるということは、この五橋の効果というのは目に見えてすぐあらわれるということがよくわかるんですけども、まだ利用途中で効果的には最終的には本当はよくわからないと思うんですけども、今後この事業を継続していくような考えはございますでしょうか。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） お答えいたします。

本事業につきましては、まだ利用の途中でございます。次回、いつすると決定しているわけではございません。次回の本事業を望む声というのは非常にあちこちから聞いております。その声にかたえるためには、今回の本事業につきまして幾つかの反省点がございます。例えば、今言われたように、事業の周知。どこで使えるかという取扱店の周知、予約と受け取りに市役所に2回行かなければならないということ、それから買い物券購入申し込みの上限枠。今回、撤廃いたしましたので、そういうことでございます。このような反省点、また、全国の事例をきちんと整理しました上で、今後準備しておく必要があると思います。

ただ、今言われました市内への経済効果というのは、確実に5,500万円発生しております。現在の経済危機を考えますと第二弾、第三弾の実施も市長と相談をしながら検討すべきだと考えて

おります。

○議長（渡辺 稔夫君） 高橋君。

○1番（高橋 健君） 問題点もかなりではないですけれども、次につなげるための意見というのも数多く担当課に寄せられたということです。一つは、事業の周知のあり方というのが、今から先はどういう事業をするにしても一番大事になってくるのかと。非常にいいことだと思うんですけども、周知期間が少し短かった。スピードを要したので、そうなったと言われても、どうも言えないんですけれども、周知を徹底したやり方というのをもう少しやらなければいけないかと私個人的には思っております。

あと、もっと年度をまたがってもよかったのかなと。3月いっぱいとなっていますけれども、4月いっぱい、5月いっぱいとか。年度内にしてしまわなければならなかったのか、その辺はちょっとわからないので何とも言えないんですけれども、もう少し周知期間を長くにとって、販売期間を長くとするということは、最初には考えられなかったのかと。私が勉強不足で、年度内にやっ
てしまわなければならない理由があったのならば教えてください。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） この利用期間につきましては、5月に出納閉鎖がございます。そこで、4月までに換金をしませんと5月の出納閉鎖には間に合わないというような問題がございましたので、期間を短めまして2月と3月に使用すると。それで、余り使用期間を長くすると1枚がわずか500円ですけれども偽造の絡みもあるかということも懸念しましたので、今回の場合は2カ月間ということで限定をさせていただいたところでございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 高橋君。

○1番（高橋 健君） わかりました。私の勉強不足で申しわけございません。

上限が一応撤廃されたのが1月25日から30日でよかったですか。それで、50万円以上の五橋の券を買われた人数、何名ぐらいいらっしゃるんですか。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） お答えいたします。

今回、先ほど言いましたように、予約受け付け期間には販売が非常に不振でございました。それで、販売時に購入上限を撤廃しまして販売をいたしました。先ほど言いましたように、1月25日から30日までで一応完売しましたがけれども、お尋ねの50万円以上の購入者でございまして、13名いらっしゃいました。多くの方に購入していただくという意味では、先ほども申しましたけれども一定の上限は必要かと感じております。

○議長（渡辺 稔夫君） 高橋君。

○1番（高橋 健君） 今はやりの言葉、さもしい質問になりますけれども、最高額というのはお幾らになりますか。購入最高額というのは。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） お1人の方が300万円でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 高橋君。

○1番（高橋 健君） 私の個人的な意見になりますけれども、最初、出足が低迷だったということで、予約期間のときまでで2,000万円ぐらい売れたんですか、それで上限を撤廃されて完売に至ったわけなんですけれども、300万円だったら計算すると30万円お得になるということですか。多分、車か何かを買われたのかと思うんですけれども、非常にいい買い物をされたんだと思います。ただ、上限を撤廃することによって、今後、市長とかいろいろと相談して、また事業をするかというのは考えていきますという答弁が先ほどあったんですけれども、また仮にやるときに、これはあくまでも私の意見ですけれども、上限が撤廃されるまでの買い控えというのが恐らく発生してくるのではないかと考えております。

あと、上限を撤廃された後に抽せんは行われたのかというのを聞きたいんです。上限を撤廃された後も順次売っていくやり方をされたのか、25日から30日まで上限を撤廃しました、募集をしますと、それで、30日に抽せんして上限撤廃者に希望額を販売しますという形でされたのか、それをちょっと聞きたいんですけれども。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） 25日から販売いたしましたのは、予約分は確保しております。予約された方の分を確保して、その残りは上限を撤廃して売り切れ御免という形で販売をいたしましたので、30日には完売をしたということでございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 高橋君。

○1番（高橋 健君） では、上限撤廃後は抽せんは行われなかったということよろしいですか。たしか最初の募集のときには、抽せんになりますというところで募集をされたと思うんですけれども、上限を撤廃されたときの抽せんは、売り切れ御免というよりも抽せんをしたほうがよかったかと私は個人的に思うんですけれども、そういう意見は課内では出なかったでしょうか。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） 当初に申しましたとおり、多くの方に購入していただくということで、1世帯に5セットまでということで限定をいたしました。ところが、先ほど言いましたように多い場合には5セットで、なおかつ1万セットでございましたので、市内には二万数千世帯ございますので、それを割りますと5セットが、1世帯に1セット、十分当たりませんで、5セットまでは申し込みはできますけれども多い場合には抽せんをするということで募集要項には書いてあったかと思っております。それで、先ほど言いましたように申し込みが2,109冊でございましたので、上限を撤廃しまして、何にしろ完売をしよう、まずは完売だということで課内でも動きまして、それで上限枠を設けずに発売をしたということでございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 高橋君。

○1番（高橋 健君） ですから、その上限枠を撤廃した後に募集期間が終わった後に、上限

枠を撤廃した中からの抽せんをしようという意見は、とりあえず完売が目的ということで部長が答えられておりましたけれども、最初は抽せんをしたんだから今度も抽せんにするべきではないかという意見が出たのか出なかったのかというのを聞きたいんですが。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） 先ほど言いましたように、まずは完売が先だということで、上限枠、抽せんとかというのは特に課内でも意見は出ておりません。

○議長（渡辺 稔夫君） 高橋君。

○1番（高橋 健君） 多分、今後また事業をされる中では課題等いろいろあると思いますんで、改善されていくとは思いますが、今回の五橋、スピードを要されたというところである程度はわかるんですけども、どうしても利用者の声を聞きますと、行ったらもう売り切れだったという声をあちらこちらから聞きます。いい買い物をされた300万円の高額の購入をされた方もいらっしゃるんですけども、先ほどの部長の答弁の中にもあったように、できるだけ多くの人にこの五橋を買ってほしいというスタンスで始めて、買い控え、使えるお店が最初はわからなかったから余り出足が悪かったんですけども、上限を撤廃したら完売に至ったと、途中で完売のほうへの重きを置く事業展開になってしまったのかと。

今後この事業をもし継続されるのであれば、言葉は悪いですけども、お金を持っている人が得をするような、もしかしたらこれが1,000万円とか2,000万円とか極端ではございますけれども、そういう買い方をされる方が出てこないとも限りません。先ほど私のテーマをお話ししましたが、多くの人にできる限りこれを有効に活用してほしいというのが私の思いですし、またあったらやってほしいと事業所の方々も言っておられますし、市民の方々もできるならまたやってほしいと。ただ、この上限を撤廃したというのはいかがなものかというところを多数聞きましたので、きょう私が一般質問をするに至りました。

まだ事業の途中なんで、詳しい成果というのは出てこないと思いますけれども、これから多分アンケート調査だったり調査等されますけれども、どういった事業所で多く使われたとか、飲食店が多かったとか、普通のストアが多かったりだとか、データとして集めれば上天草市の地場産業がどういうところにお金が使われているのかというの、ホテルで使われているとか、そういうふうなところで、多分、観光に対してでも何かのきっかけになると思いますし、上天草市はここを伸ばしていけば消費が多いんだというのが非常に見えてくる事業にもなるのではないかと。お金を持っている人が得をするような事業に見えますけれども、この上限だけをうまくあいやっていけば、素晴らしい事業ではないかと私自身は思っておりますので、これからもぜひ続けていってほしいと思っております。

以上を聞いて、市長としては、この五橋の振興券に関してどういう感想を持っておられますか。お聞かせください。

○議長（渡辺 稔夫君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 昨年9月15日、リーマン・ブラザーズの破綻以来、世界的な金融危

機、そして大不況の波が押し寄せているという状況を踏まえまして、昨年12月議会、緊急的にこの地域振興買い物券、五橋を導入させていただきました。見切り発車的な部分が少々見え隠れしまして、今議員が御指摘のような問題が発生したのも事実でございます。この反省点を踏まえまして次回につなげたいと思っております。しかしながら、事業の結果といたしましては、おおむね市民の皆様には好評でございまして、少なからず5,500万円という経済波及効果もあっていると思います。このため、2回目、3回目をいつかの時点で実行したいと思っております。

それとあわせまして、大矢野町商工会の四郎スタンプの組合の方が、スタンプを2倍にするということもあわせて実行いただきまして、官民あわせての経済対策が一つ実行できたと思っております。今後とも、五橋に限らず経済振興につなげていきたいと思っておりますけれども、五橋のような買い物券を継続したいと考えております。

○議長（渡辺 稔夫君） 高橋君。

○1番（高橋 健君） 市長の答弁としましては、これからも五橋に関しては、改善すべきところは改善して、市民の方々に多く使ってほしいというふうな解釈をいたしております。

昨日の堀江議員の一般質問に地域通貨というところがありましたけれども、私も常日ごろ思っているんです。よく広報に載ってくると思うんですけれども、市のボランティア団体だとか、いろいろボランティアをされている箇所はあると思うんです。そういったボランティアを市に申請して、そこら辺の中身の取り決めは詳しく決めていただいて、申請のあったボランティア活動に参加された方へ、今500円以内という五橋の振興券がありますけれども、これは100円なり200円の1枚振興券をつくりまして1枚ずつ全員に配るというふうな事業というの、スピードを要さないでいいときなんかは非常にいいかと私も常日ごろ思っていたんで、きのう堀江議員が一般質問したときに、ああ、確かに今は無償ボランティアでやっていますけれども、有償ボランティアという考え方というの必要なのではないかと、それが中央集権から地方分権、地方分権から住民自治活動への一つのきっかけづくりという形になっていきはしないだろうかと、私、思っております。

そこで、地方自治から住民自治という言葉が出てきましたんで、私個人的に思うんですけれども、きょうのニュースでも民主党の小沢さんの秘書がどうだかこうだかという話をされておられますが、今、中央は非常に揺れております。地方は地方で頑張ってやっていかなければならないというのは、私ども議員も執行部の皆様方も毎日思っていると思っております。それで、オバマさんの言葉ではないですけども、イエス・ウイー・キャンと。住民一人一人が今から地域を変えていくんだと、自分の生まれ育った上天草市を変えていくんだ、守っていくんだ、強くしていくんだと。

今のところ依存財源が非常に多い上天草市ですけども、その中でも、どうにか依存しなくていいような形での政策というのを今から多分求められるのではないかと私は個人的に思っております。地方分権から住民自治活動の発展というところを今から多分考えていかなければいけない

と私は常日ごろ思っておりますけれども、質疑には通告はしておりませんでしたけれども、地方分権から住民自治活動への充実ということに関して、市長のお答えを聞きたいと思っております。よろしくお願ひします。

○議長（渡辺 稔夫君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 大きな流れとしてしかお答えできないと思っておりますけれども、御指摘のように地方分権というものは、これまで1999年7月の地方分権一括法以来進んでおりまして、現在のところ、地方分権の終着点として道州制の問題も話し合われております。ただ、その根底にあるのは、国が中心となってきたピラミッド型の統治機構では、国の運営、また地方の運営、それぞれが立ち行かないということが現実でありまして、そのために一度このあり方を見直して、要は地方にそれぞれ権限、財源を持たせてやっていっていただきたいという行政システムの再構築が図られております。その中で、地域住民にとっても少なからず影響がございまして、地域のことは地域でやっていっていただきたいというものが根底にございます。

当市では、具体的には13地区のまちづくりを主体としまして、地域づくりをそれぞれやっていただいております。また、大きな意味で言いますと、上天草市というものをどう経営するかという点が今後テーマとなってきています。これまで、行政経営という言葉で、国からの三角形の国、県、市町村というトライアングルの中で行政経営がなされておりましたけれども、これからは冒頭に申し上げた地方分権の時代を迎えまして、地域経営というあり方に変わっていきつとると認識しております。地域の抱える問題を地域がそれぞれ主体的に解決して、地域の発展をそれぞれが図ってくださいますということになります。

そのため、市として、どういうのが今問題であるかというのを再認識した上で、現在、政権をいろいろな点から動かしておりますけれども、そのあらわれが20年度からの経済振興でございまして、これは、上天草市そのものが抱える問題は究極的には過疎化でありまして、これをどう解消するかという点が中長期的に市の存続を考える上で非常に重要でございまして、その過疎化の問題の本質は経済でありますので、経済をとにかく立て直して、自分たちで財源を賄えるような理想を求めつつ市民生活を向上していくということが、これから大事ではないかと思っております。それが地域経営ということに集約されると思うんですけれども、その一環としていろいろな政策を展開していきたいと思っておりますので、市民の皆様、議会の皆様には、あわせて御協力、また御助言をいただきたいと思っております。

○議長（渡辺 稔夫君） 高橋君。

○1番（高橋 健君） 市長から、地域経済を立て直すという言葉が出てきました。この地域経済を立て直すという一環の中で、今回の五橋の事業という形で、私、認識しております。事業所の方々にも、利用者の方々にも、ぜひ、またやってほしい、第二、第三弾を望まれる声というのは大にしてございまして、何回も言いますが、今回スピードを要された事業ではございまして、こういうスピードにも対応できる情報を共有できるようなシステムというのを、上天草市に情報をすぐ供給できるようなシステム、防災無線もあります。この上限を撤廃しま

したというのを防災無線で流しておりましたというのをちょっと聞きましたけれども、果たしてどれぐらい浸透していたのかというのは、私も疑問に思っております。非常に難しい問題ではございますけれども、スピードを要されるようなときは情報をすぐ共有できるシステムづくりというのも、ぜひ取り組んでいってほしいなと思っております。今からの上天草市がどうなるかというのは、皆様方の手腕にかかっているところだと私、思っております。財政のほうも苦しい中でも、いろいろなところに重点を置きながら予算組みされて、それを実行していくところで、皆様方には日ごろより非常に御尽力いただいていることをお礼申しまして、1番、高橋健の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（渡辺 稔夫君） 以上で、1番、高橋健君の一般質問を終わりました。

ここで、10分間休憩いたします。

休憩 午前10時37分

再開 午前10時47分

○議長（渡辺 稔夫君） 休憩前に引き続き、再開いたします。

6番、田中万里君。

○6番（田中 万里君） おはようございます。議長のお許しができましたので、これより会派みらい、田中万里39歳の最後の一般質問を行いたいと思います。

私は今回、4点の質問をいたしますが、今議会で最後の一般質問となるかもしれませんので、欲張って質問事項を4点も通告しましたが、時間上の都合がございますので、答弁は簡潔に期待の高い質の濃い答弁にてお願いいたします。

では、1点目の、市長就任後の子育て支援についてお尋ねしますが、その前に市長に一言、お子様誕生のお祝いの言葉を申し上げて、質問に移りたいと思います。市長、お子様のご誕生、まことにおめでとうございます。今後も市民のため、そして誕生されたお子様や御家族のためにも健康には十分に留意され、頑張ってくださいと思います。と同時に、同世代の子を持つ親として、子育て中の親の気持ちが日本一理解でき、支援策を講じる首長になられるものと期待をして本題に入りたいと思います。

子育て支援におきましては、このまま少子化の進行が進むことによる経済や社会に与える影響が懸念され、少子高齢化対策の一環として、どこの自治体も本腰を入れて取り組んでおります。

先日も菊池市が、そしてきょうの新聞には合志市が医療費無料化を小学6年生までに拡大するとの記事が載っておりました。その他の自治体でも、小学校までの医療費の無料化は早い時期から実施し、時代のニーズに合った多種多様な子育て支援策を実施しているのが現状であります。そのような現状を踏まえ、本市を省みますと、果たして時代に適した少子化対策となり得る十分な子育て支援が行われているのでしょうか。

まず初めにお尋ねするのは、市長の子育て支援に対する考え。2、市長就任後、新たに取り入れた本市単独の子育て支援は。3、現に子育てをしている市民の現状を把握しているか。これ

はアンケート等による意見収集や聞き取り調査などを行ったかという点です。4、本市特有の支援策の考えは。以上の点について、まずはお尋ねいたします。

○議長（渡辺 稔夫君） まず健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） ただいまの質問にお答えいたします。

子育て支援に関しましては、社会全体で子育て支援の必要性に取り組む地域次世代育成支援行動計画に基づき、私たちは実施しているところでございますが、子育て世代の出生率の改善には、なかなか成果が上がらない現状でございます。その中にありまして、市としてはここ数年、財政再建に一生懸命取り組んでまいりました。そういった財政状況の中で、なかなか経済的支援ができない状況でございます。財政問題ばかりではございませんけれども、少子化対策、少子化傾向を踏まえまして、保育所の民営化等に現在取り組んでいるところでございます。その保育所の民営化を行う場合には、公費の節減がかなり出てまいります。そういったことで、その効果を生きて支援の充実とか、保育料徴収基準の据え置きとかといったところで現在考えているところでございます。新年度から、子育て支援室の設置を考えてありますので、その中でこれまでの施策を十分精査しながら、新たな取り組みを開始したいと考えております。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） 私、市長の子育て支援の考えという点について、市長にお尋ねしたいんですけども。

○議長（渡辺 稔夫君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 私の就任が2年前であるんですけども、2年前を振り返りまして、喫緊の課題として財政がございました。そのため、財政健全化そして行政改革というのを、この2年間、必死に取り組んできたんですけども、ただ一方で、公費負担増に伴うさまざまな政策は手つかずの段階であるのは事実でございます。今回の子育て支援策についても、本市として独自に取り組むという部分には、なかなか踏み込めていないということは、私も反省しているところでございます。財政の健全化が少しずつ進みつつありますので、今後のテーマといたしまして、高齢者福祉、そして子育て支援等、健康福祉部関連でありますけれども、こちらをこれから強化していきたいと考えております。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） 市長も今答弁の中で言われたように、今後は子育て支援に全面的に取り組んでいただく方針だと、私は期待をしております。その中で、今部長がちょっと答弁されましたが、私が質問した、現に子育てをしている市民の現状を把握しているかという点なんですけれども。この点については平成17年度において、この上天草市次世代育成支援計画を作成するに当たって調査等はされているという点でございますが、もうそれから数年がたっております。現在のニーズに合った調査は行っているのか。また聞くところによりますと、平成20年度の1月に調査をしたような話を聞いております。それで、その辺の調査内容を簡潔に、今の子育てをやっておられるお母さんたちはどういう部分を求めているかについて、お尋ねいたし

ます。

○議長（渡辺 稔夫君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 17年度で、計画策定のときに1回行いました。同じ調査を本年度事業としまして、現在、二次調査が終わって集計中でございます。その内容につきましては、保育サービスに対するニーズの調査でございます。こういった保育サービスを望むのかというようなことの調査でございまして、本格的なその他の意識調査とは若干違うような部分がございます。昨年5月に行いました市民意識調査の中で、子育てに不安感や負担感を感じているということが調査の中に入っております。その中に、非常に不安や負担を感じるという方が30.4%、それから、やや不安や負担を感じる方が47.4%いらっしゃいます。合わせて78%の方が不安や負担を感じているという回答でございました。これは、18歳未満の子どもを持っている親の方の回答でございました。そういったことを参考に現在考えております。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） ちょっとお尋ねしたいのが、そのアンケートの対象者は、例えば保育園等への協力を願ってやったのか、今現在、子育てをしているお母さん方や、また、これからするであろうお母さん方の意見というのは聞いておりますか。

○議長（渡辺 稔夫君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 直接の意見というのは、なかなか私たち聞いておりませんが、保育園、小学校、中学校に依頼をしまして、対象者の約――

○6番（田中 万里君） いいです。してないということでしょう。

○健康福祉部長（松浦 省一君） はい。

○6番（田中 万里君） いいです。

次、移ります。今後、次世代育成支援行動計画は、今度は後期に移ります。21年度からです。後期については、これまでそういう意見収集をしたのをもとに、この策定委員会のメンバーの意見を聞きつつ、反映されると認識しておりますが、私がお尋ねしたいのが、次世代育成支援行動計画策定委員会のメンバーの中にどのような方がおられるか。例えば、現在、子育てをしておられるお母さんがいるか、また、保育園の現場で子どもたちと接している方がおられるか、その2点について、お尋ねいたします。

○議長（渡辺 稔夫君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 21年度の策定委員会の構成については、まだ、今は決まっておりますけれども、前回の部分で申しますと、公民館関係、PTA関係、それから子育ての関係でクラブをつくっておられますが、すすくクラブとか汽車ぽっぽとかいうクラブの方、それから行政が入っております。それと、各私立の保育園、公立の保育園の保護者の代表、それから校長会、学務課等に入っております。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） 21年度のメンバーは、これから後期の委員会は決められるというこ

とありますが、これは私からのお願いなんですけれども、実際、今子育てをしている方たちを多くメンバーとして採用し、率直に意見を聞くべきだと思います。と同時に、広報で募集をすとかした上で、本当のお母さんたちの声というのを、後期には取り入れていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。それから、来年度から福祉課の中にですか、支援室を設けるということですが、この点につきましては、市長の施政方針の中で、支援室を設けていろいろと取り組んでいくようなことを述べておられますが、今後の取り組みについて、まず、お尋ねいたします。

○議長（渡辺 稔夫君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 子育て支援室の取り組み。

○6番（田中 万里君） 今後どういう取り組みをするか。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 現在、子育て係が3名でやっております、通常業務で手いっぱいであるということで、体制がまだ今のところ私にはわかりませんので、こういった体制になるのかということがわかった時点で今後の考えをまとめていきたいと考えております。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） 要するに、今のところ何も考えていないということで、私の意見としては市長も施政方針の中で総合的な支援策を展開すると述べておられて、大きな期待を持っておりましたが、では、ある程度のこういうことをやりたいというのは、中にはあるかと思うんです。それで、私がこれより、今現在、子育てをしているお母さん方の率直な意見としての声を代弁し、お尋ねしますので、以下の支援策を実施した場合の予算額の推定を答弁願います。これは所得制限と書いてありますが全部省いていいです。それと、答弁は対象者の数とその推定金額のみでいいです。ほかの部分は時間の都合がありますので、ああではない、こうではないというのは省いていいですから。

それで、まず、1、義務教育期間の医療費の無料化。2、2人目の保育料の無料化。3、3歳までの育児に対して、おしめ・ミルク代補助金として月額1万円支給した場合の推定額。4、未就学児の予防接種への全額補助金支給。これについて、お答え願います。

○議長（渡辺 稔夫君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 議員がお示しになりました所得制限の部分で、若干、御説明してよろしいでしょうか。

○6番（田中 万里君） はい。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 所得制限80万円以下というような――。

○6番（田中 万里君） 180万円だったと思いますけれども。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 1番の項目は80万円ということではなかったですか。

○6番（田中 万里君） それなら、それは印刷ミスで、180万円です。

○健康福祉部長（松浦 省一君） そうですか。私どもの手元のは80万円となっておりますので、済みません、失礼しました。ただ、180万円の所得制限でしますと、それぞれの方の税情報

からひっくり返して算出する必要がある場合がございますので、なかなかすぐにはできないということで、全員を対象としたということで算出します。

○6番（田中 万里君） それでいいですからお願いします。

○健康福祉部長（松浦 省一君） まず1番ですが、中学生まで拡大した場合、2,775人の増加で5,551万2,000円の新たな費用が生まれます。二人目以降の保育料の無料化につきましては、これは所得制限なしの段階ということで、71人で380万4,000円。それから、3歳児までのおしめ・ミルク代の1万円の件ですが、264人で3,168万円。それから、予防接種につきましては、1,588人、3,811万2,000円の見込みでございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） 確かに、今言ったことすべてをすると、約1億2,900万円の年間の出資となります。うちの市が一般会計で今度の当初予算で計上しているのは約140億ですか。そのうちの1億4,000万円、これで上天草市の子どもらや、あるいはその親御さん、関係する人、多分、上天草市の4分の3ぐらいは関係するのではないかと思います、その方たちの生活が、あるいは、これによって経済の波及効果も見られると思いますが、これに値するのが約1億3,000万円。これが高いと思うか低いと思うかは執行部の考えでございますが、私は確かにぜいたくを言ったら切りがないと思います。

ただ、私なりに、政治というものの優先順位は弱者からだと思っております。子どもや老人、あるいは体の不自由な方、そのような弱者に対しての支援を最優先にした上で、現代のニーズに適した行財政改革を遂行し、市長のマニフェストでもある安心安全なまちづくり、健やかで住みよい自治体、子育てしやすい働く女性に優しい都市、上天草市づくりへとつながるのではないかと思います。財政が厳しいのは私も十分に認識しております。しかし、親なら何を一番に考えるでしょうか。子を持つ親ならば、まず初めに考えるのは、子の健やかなる成長ではないでしょうか。これだけの優秀な職員がおられます。もっと目を見開いて見てください。費用対効果があらわれない事業があるのではないかと私は思います。その点、財政面ですので財政課長にお尋ねいたします。

○議長（渡辺 稔夫君） 財政課長。

○財政課長（永森 良一君） お答えいたします。

費用対効果ということでお尋ねだと受け取りましたが、それでよろしいでしょうか。

○6番（田中 万里君） いえ、無駄な事業があるのではないかと私は思うんですけども、その点については、どう思われますか。

○財政課長（永森 良一君） 非常に難しい質問だと思います。先ほど高橋議員の一般質問の中で、今年度5回の査定を行ったということでお褒めの言葉をいただいたんですが、私たちは私たちに市民の目線に立って精査をしたつもりでございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） わかりました。では、そう言われるのであれば、私から一つの件を申

申し上げますと、私は4年間議員をして、その前、大矢野町当時から2年間、計6年間して、合併当初、一番後悔している点がございます。それは、干切漁港の整備でございます。ちなみに、干切漁港が最終的にでき上がるときの市の負担額というのは、どれくらいになりますでしょうか。大体でいいです。総予算でもいいです。

○議長（渡辺 稔夫君） 経済振興部長。

○経済振興部長（山下 幸盛君） 総予算が20年度までで17億円ぐらいだったと思っております。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） このうちの、3分の2が市の負担額ですか。

○議長（渡辺 稔夫君） 経済振興部長。

○経済振興部長（山下 幸盛君） そのうち、国庫補助金が2分の1、それと県費が15%だったと思います。

○6番（田中 万里君） 市の負担額はどのくらいですか。

○経済振興部長（山下 幸盛君） 市の負担額として35%であります。

○6番（田中 万里君） 約5億円ぐらい。

○経済振興部長（山下 幸盛君） 正確な数字ではないですけども。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） 干切漁港については、今さら言うのもおかしいですが、もっと調査した上で議会で承認すべきだったと、私は今さらながら後悔しております。決算委員会でも言ったように、干切漁港を利用される本来の船の数というのは、五、六隻しかないとは私は認識しております。五、六隻の船の持ち主たちをないがしろにしろと言うのではなく、その五、六隻の船の方々のためと言えはおかしいですけども、それには総額17億円もの予算を使い、市からの負担金、5億円使っております。

私はこういうお金が子育て支援に使えれば、どんなに現在子育てをされているお母さん方や保護者の人たちが助かっただろうかという思いがしてなりません。そういう面を含めて、先ほど市長が答弁されたように、今後は子育て支援にも力を入れていくという強い決意のもとで遂行していただきたいと思っております。そして、本当の意味で市民が期待する事業というのを取り組んでいただきたいと思っております。私が提案したすべてでなくてもいいです。一部でもいいですから、本当の意味での少子化対策、子育て支援策を考えてください。真剣に考えれば、本市特有の子育て支援策ができるのではないかと思います。ぜひとも、よろしく願いいたします。

次に移りたいと思っております。次は、天草四郎を核とした観光都市づくりについて質問いたします。世界的にも有名な天草四郎を核とした観光づくりができないかということです。また、その予定はないか。県外で天草と言ったら、ほとんどが天草四郎を連想されます。今の市の観光づくりというのは、その辺を十分に生かした取り組みがなされていないのではないかと私なりに危惧しております。その点について、部長、簡潔でいいです。答弁をもらったけれども、前置きはいいで

すから、簡潔にお願いいたします。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） お答えいたします。

ことし取り組んでおりますのは、天草四郎を観光素材といたしまして、歴史ストーリーをつくりながら、それからキャラクター及び観光看板、それから特産品シンボル。今現在、観光看板とシンボルにつきましては、製作中でございます。3月までにはできる予定でございます。ということで、県内外のお客様に積極的にこれをアピールしながら、上天草市イコール天草四郎ということ年全国的に定着させることで、観光推進、並びに観光客増加に結び付けたいと考えています。また、きょう新聞にも載っておりますけれども、本市のみならず天草市、苓北町、並びに島原半島と連携したキリシタン文化や歴史を生かした広域的な雲仙天草観光圏整備計画の推進も、今後取り組んでいきたいと考えております。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） 今後は、そういうふう到天草四郎を核とした取り組みをするということで、協会もあまくさ四郎観光物産協会という名前にもなったことですし、全面的に取り組んでいていただきたいと思ひます。それで、今、ストーリー的なことと言われましてけれども、その辺も大事だと思ひます。ちなみに、熊本県内でも、また、県外に出たときが特に多いんですけれども、上天草市といつても、ほとんど知らない人が多いです。天草市といつても知らない人が多くて、天草四郎といえは、ほとんどの人がよくも悪くも知っております。

ただ、寂しいことに、天草四郎をこれまで取り上げた漫画やドラマ、映画、そういうのはほとんどが、四郎さんが余りいい人ではなくて悪い人にイメージがなっておりますので、その辺も、四郎さんはとてもいい人だったんだというようなストーリーをつくってもらえれば。そして私がよくよそに行って言うのが、天草四郎はうちの家の3軒先で生まれたんですとか、天草四郎が何で美男子だったかと言うと、上天草市の温泉につかっていたからああいう美男子になったんですと。上天草市の温泉につかれば美男子になります、またいい女になりますという話をして、ぜひとも上天草市に旅行に来てくださいという営業活動をしております。それで、市長にも今後は天草四郎をフルに使って、まあ、うそではなくて、うそも方便と言ひますんで、営業活動をしていただければと思ひます。ちなみに、市長はとても見てくれもいいので、私も上天草市の温泉につかて天草四郎並みにこういうふうになりましたと言ひいただければ、すごく説得力があると思ひますんで、ぜひともよろしくお願ひします。

また、これは以前、何川市長のときも私お願ひしたんですけれども、もしよそに行くときに、本当にこれは笑い話ではなく、どうせよそに行くなら、天草四郎の衣装を着てよそに行つてみないですかと。そうしたら、絶対マスコミやそういうのが騒いで上天草市のPRになりますというようなことを言つたんですが、当時の何川市長は年齢も年齢だったんですけれども、現在の市長は本当に若くてすらっとしてありますんで、天草四郎の生まれ変わりと言ひてもいいんじゃないかと思ひます。ぜひとも、その辺は、どうせよそに行くのなら、天草のインパクトは持てるような、

そういう取り組みをしていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

次に移りたいと思います。副市長の選任についてお尋ねいたします。副市長においては、合併当初より空席が続き、川端市長体制になっても副市長任命もなく多忙な業務を市長ひとりでこなしているのが現状であります。これは通告書には記載しておりませんが、まず初めに次の質問をするに当たり、市長にお尋ねしなくてはならないことが、市長は副市長を必要だと思っているのかお尋ねいたしたいと思います。

○議長（渡辺 稔夫君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 最近、特に痛感しているんですけども、副市長はぜひ必要であると認識しております。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） 今年度の予算にもたしか計上してあったのではないかと思うんですけども、その辺も踏まえて、私もそろそろ副市長が任命されるのではないかと思って、多分、次の議員の改選後だと思うんです。

では、その任命に当たってお尋ねしたいのが、まず1つ目が、副市長の役割について。2、市長が副市長に求めるもの。3に副市長を選任した場合の年間人件費とありますが、これは最後に回します。4、国、県、民間企業からの選任の考え、あるいは合併当初は均等人事ということで三役については旧町への配慮の部分がありましたが、その辺の考え。5は後でいいです。今の3点について、まずお尋ねします。副市長の役割についてと、副市長に求めるもの、国、県、民間企業からの選任の考え、あるいは旧町の配慮の部分を取り入れるのか、という点をお願いいたします。

○議長（渡辺 稔夫君） まず、総務部長。

○総務部長（川本 一夫君） 私、いつも温泉に行っておりますが、見てくれが悪い総務部長でございます。最初の、副市長の役割はということでございますが、委員長とか会長だけでございますが、結構いっぱいあるんですけども。

○6番（田中 万里君） 簡単にでいいです。

○総務部長（川本 一夫君） わかりました。委員長といたしましては、防火対策、職員人材育成、指定管理候補者選定、不当要求防止対策、公正入札調査の各委員会の委員長でございます。それから会長といたしましては、建設工事指名、工事入札参加者資格審査、工事等請負及び委託契約等に係る指名停止の措置要領、指名停止の委員会。それが会長でございます。あと、委員がいっぱいございますけれども、一応、要職だけ申し上げておきます。

○6番（田中 万里君） わかりました。

副市長に求めるものは。これは市長でいいですか。

○議長（渡辺 稔夫君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 副市長というのは行政の内部事務の統括者と位置づけられると思っております。特に、その仕事の中では、市長と各部局の調整役というものも含まれると考えてお

ります。率直に言いまして、行政手腕にたけた方というのが副市長に求められるのではないかと思います。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） 3点目の国、県、民間企業からの選任の考えと、旧町へ配慮した人事、選任をするのかという点。

○議長（渡辺 稔夫君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） まず、国、県、民間からの選任でございますけれども、これも一つにはあり得る話ではないかと思えます。しかしながら、これまでの各自治体の副市長の選任を見ておりますけれども、国、県からこれという人を見つけたとしても、一本釣りができないんです。ですから、非常に当たり外れというのが適切な言葉かわかりませんが、そういう部分が国、県の場合はございます。それと、あと1点が地域ごとの考えでございますけれども、合併してもう5年たっております、地域割りという人事については、もう現段階では私の頭にはございません。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） ついでに副市長候補についての市長の考えを続けて述べてもらえれば。

○議長（渡辺 稔夫君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 具体的な候補者というのは白紙でありますけれども、ただ、内部統括責任者として行政手腕、また、これまでの行政経験にたけた方が適任ではないかと思っております。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） 今回の答弁を聞いた限りでは、国、県からはちょっと難しい。まあ、地域割りも合併5年目ですので、そういうのはもうなしにしていけないか。それで、候補については内部統括の手腕がある方。話を総合的にまとめれば、元職員が一番適任ではないかというふうに聞こえるんですけれども、ちなみに、総務部長も今回、定年されるわけではございますが、そういう意味合いでとってよろしいですか。元職員が適任ということで。

○議長（渡辺 稔夫君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 適任でもあるということで御理解いただきたいと思えます。必ずしも市出身者、職員の出身者というわけではありませんけれども、ただ、行政手腕にたけた方というのが一番適任ではないかと思っております。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） 確かに、先ほど市長が答弁の中で言われたように、市長と各部局との調整役と、あるいは議会の調整役と、その辺にたけている方が適任者であるというふうに言われましたが、私の認識としては、副市長は家族で言うならば市長の女房役であり、会社に例えれば権限を有する専務的存在で社長の代理として、先ほど市長は内部の調整役と言われましたが、私は外部との交渉などを活発的に行う存在ではないかと思えます。具体的に言えば、実際

の副市長の最大の注視される点は、先ほど総務部長より役割について中で言われたように、工事等の指名入札委員会の長としての指名権限が与えられることではないかと思えます。その点を踏まえ、私は副市長には公正、公平に務め得る人物、そして、市長の施策実現に私心を捨て、圧力に屈せず、鋭意努力する人物をと思います。その辺を考えた上で、副市長を任命される場合、後先になりましたけれども、副市長への年間の人件費はいかほどになりますか。

○議長（渡辺 稔夫君） 総務部長。

○総務部長（川本 一夫君） 人件費は920万円程度でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） 年間920万円もの市民の税金が支払われる方です。市長を初め、議員は選挙で選ばれますが、副市長においては市長の選任です。それで、920万円もの市民の大切な大切な税金が使われ、私なりに考えるのは、920万円を使って、この何十倍もの結果を出す人が副市長としてふさわしいと思っております。推薦される際は、その辺を見極めた上で推薦をお願いいたしたいと思えます。よろしく願います。

次に移ります。次は、不正経理の調査についてですけれども、不正経理と簡単に言えば、何やら上天草市が悪いことをしているように聞こえますが、これはなぜ今回、このような質問をするかといいますと、熊本県や熊本市において不正経理、裏金、存在しない領収書を切ってもらったり、業者にお金を預けたりという事態が明らかになりました。その上で、行政機関に対しての不信感の声が新聞紙上にも多く取り上げられております。本市においては、そのような裏金的存在のようなお金はないと市長はさきの議会で答弁され、私も安堵している次第ではございますが、県等の例もでございます。県も初めのころは、そういうのは一切ございませんと言っていたところ、後々になって、たたけばほこりが出たのか、出てきました。その辺を踏まえて再度調査をし、その結果を発表していただけないかと思えます。そうすることが上天草市民への信用となるのではないかと思えますので、それと同時に、前回、市長はそういうお金はないと言われた点で、どのような調査をされたかという点をまずお尋ねしたいと思えます。

○議長（渡辺 稔夫君） 総務部長。

○総務部長（川本 一夫君） そのときの市長の答弁は、たしか裏金についての認識ということで発言をされたと思っております。

○6番（田中 万里君） そうだったですか。

○総務部長（川本 一夫君） はい。それから、調査のほうは現段階では、まだ全然行っておりません。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） そうですか。調査を行っていないのであれば、今後、調査をした上で、上天草市にはそういう世間で騒がれているようなことはございませんという発表をするべきではないかと思えます。というのが、なぜこういう質問に至ったかという、県のことが、熊本市もですが、新聞に出た際に市民の方と話していたら、上天草市もこういうのがあるので

はないかと。どこでもこういうのがあるのだから。あなたたちはぼけっと議会でして、そういうのもチェックもしきれないのではないかとというようなことを言われて、私はすごく反論をしました。その点も踏まえて、今回調査をして明らかにしていただきたいと思います。その点について、市長、答弁を願います。

○議長（渡辺 稔夫君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 最近、熊本県、そして熊本市も絡みますけれども、裏金、不正経理というものについての話が出ております。私の12月議会の答弁では、裏金のようなことはあってはならないと認識しているという言葉を使っておりますので、私も今後ともこういうことはあってはならないと思っております。今の議員御指摘の、実際に裏金というものがあるのかどうかということを調査しろということでございます。私、職員を10年しておりますけれども、私の職員時代に私が担当した部署では、そういった裏金というものは一切ございませんでした。そのため、私も恐らくあり得ないということで認識しておりますので、今後庁内に調査機関を設けて、そして事実関係をしっかり調査すべきと思っております。また、裏金というものの定義そのものが今現在不明確でありまして、どういったものを裏金というのか、よく整理した上ですべてを公表したいと思っております。いずれにしても、問題は不正経理という部分でありまして、予算化されたものを業者に預けて架空の伝票を切ったりといったことになりましても、そういったことは今後ともあってはならないし、また上天草市においては現時点ではないと私は認識しているところでございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） 今の答弁に、現時点ではないということで、今後調査機関を設けて明らかにするということですので、明らかになった時点で公表していただければ、本当の意味での市民への信頼をおける市政となると思えますので、よろしく願いいたします。先ほど市長が言われたように、どの部分までを裏金というのかという点でございませけれども、今新聞紙上で騒がれているのは、架空の領収書やら水増しとか、その点を言われております。経理上、本当に細かく私たちも決算委員会でチェックをいたします。それで、職員が私的に使うなどは、決してあってはならないことだと思いますので、その辺も踏まえて、どうかよろしく願いいたします。今回は――。何かおっしゃるんですか。では、一言どうぞ。

○議長（渡辺 稔夫君） 総務部長。

○総務部長（川本 一夫君） 今、不正経理の調査ということでございますが、不正経理というのは、例えば県のを参考にしておりますが、契約と異なる備品を買うとか架空契約の代金を業者に蓄えるとかということが不正経理と思っておりますので、この点を中心に調査をしたいと考えております。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） その点も踏まえていろいろな面から調査していいのではないかと思います。先ほどから繰り返し言うように、それが市民の行政に対しての信頼へとつながると思

ますんで、そんなに枠を狭めるのではなくて、広げる方向でお願いいたします。

続けていいですか。

○議長（渡辺 稔夫君） 田中君。

○6番（田中 万里君） 残り時間が12分となって、今回質問するに当たって、事務局長より時間のオーバーは絶対にさせないと、したら選挙でもう応援しないと言われたので、私もすごく気にしながら一般質問を行ったんですけども、総合的にまとめますと、今回の一番述べたかったのが、子育て支援にもっと力をいれてくださいという点で、市長が今までおろそかだったので今後は力を入れると。子どもの力はすごいと改めて私は認識しました。冗談のように冒頭で申し上げたように、日本では何番目か、5番目以内ぐらいに入る市長の若さだと思います。それで、ただ若いだけではなく、本当の意味で同世代の人たちの気持ちがわかる市長となっていていただきたいと私は思います。多分、そういう思いの方たちが市長を選んだのではないかとも思います。それで、子育て支援、今非常に我が市でもいろいろと悩みを抱えておられる方々が多いです。ぜひとも、その点を踏まえてよろしくをお願いいたします。

最後に、私も今議会で2期目最後の一般質問になったわけではありますが、きのう改めてこの4年間の議事録を読み返しましたが、読み返して改めて本当に思ったのが、私と島田さんがよくしゃべっていると痛感しました。それと同時に、この4年間、市民の付託にしっかりとこたえられたかなどというのを考えさせられました。振り返ればあっという間の4年間でした。4年の間に県議選、市長選などがあり、いろいろと人間模様、いろいろな面で勉強させられました。個人的なことを言いますと、この4年の間に妻を持ち、2人の子どもにも恵まれ、正直言いますと、議会では子育て支援を強く訴えています、家では子育てはほとんど妻任せで、たまに早く帰ったときに風呂に入れるぐらいで面目ない次第でございますが、ただ子どもを授かって学んだことがたくさんあり、子育てと政治は同じだと思いました。子どもがつまずきそうになったとき、親は手を差し伸べ支え、時には子どもの将来を考え、そして子育ても政治も同じだと私は気づきました。市民が安心して暮らせるように手を差し伸べ、市民が幸福になるように、きのうよりもきょう、過去よりも未来、未来の子どもたち、今を生きるすべての人のために頑張ることが政治家ではないかと再認識をいたしました。

市長も本当にこれからが正念場だと思います。4年の在任期間の折り返しに入ります。いろいろなマニフェストを掲げておられますが、私は以前ここで申し上げたように、私の政治家としての信条は結果と形だと思っております。自分が4年の間に結果としてどういうふうにあらわし、形としてどういうふうを示すことができたか、それが私らの使命だとも思っております。市長におかれましては、私も議員は何十分かの1しか権限はございません。そして、この場で提案や要望を言うだけで、執行権というのは市長にございます。市長には、その執行権がございます。今後とも、どうか市民の生活の向上、幸せにつながるような施策を展開し、頑張っていただきたいと思っております。

そして、今議会で勇退される先輩議員の方々並びに退職される職員の方々には、旧町よりの絶

え間ない御尽力に心からの敬意を表します。勇退される先輩議員の皆様には、御指導、御鞭撻を賜り、まことにありがとうございました。そして、お世話になりました。退職される職員の皆様も三十数年、本当にお疲れさまでした。時間を6分残しましたが、私の最後の一般質問となり、心ではまだ言いたいことはありますが、この辺で幕を閉じたいと思います。そしてまた、この場に立って、市民の声をできるように頑張りたいと思います。ありがとうございました。

○議長（渡辺 稔夫君） 以上で6番、田中万里君の一般質問が終わりました。

ここで昼食のため、休憩いたします。午後1時から再開いたします。

休憩 午前11時43分

再開 午後 1時00分

○議長（渡辺 稔夫君） 午前中に引き続き、再開いたします。

2番、小西涼司君。

○2番（小西 涼司君） 2番、小西です。議長のお許しをいただきましたので、一般質問を始めたいと思います。午後の眠たい時間ですが、少々のおつき合い、よろしく願いいたします。

けさ、高校再編計画は計画どおり進めてゆくということで新聞にも報道がなされておりました。きのう、島田議員も高校再編の要望書あたりの質問をされておりましたが、きのうの時点ではもう既に決定されていたようです。けさの新聞報道等を見まして、市長の見解をまずお聞かせ願えればと思います。よろしく願いします。

○議長（渡辺 稔夫君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 通告書にないから改めて。

○議長（渡辺 稔夫君） では、通告どおりに進めてください。

○2番（小西 涼司君） 通告をしておりませんでしたので、学校規模適正化事業についての質問をしていきたいと思ひます。まず初めに、現在の状況をお聞かせ願えたらと思ひます。

○議長（渡辺 稔夫君） 教育部長。

○教育部長（鬼塚 憲雄君） 学校規模適正化でございますけれども、現在の状況でございますが、平成22年4月に牟田小と姫戸小、それから樋合小と今津小の統合の計画でございます。現在まで説明会を随時開催をしておりますけれども、特に今回通告の中で樋合小ということで書いてありましたので、樋合小のことについて、まず答弁をさせていただきます。

樋合小の統合につきましては、PTA、地域への説明会を5回にわたって開催してきました。その間、PTA、それから就学前の保護者の方々へのアンケートも実施をしております。アンケート結果では、すべての人が反対というわけではありませんけれども、PTA組織として反対ということを決められております。私の個人的な考え方ですけれども、個人個人の意見が出にくい状態かという気はしております。そのようなことで、現在までは樋合地区については理解を得られておりません。

以上でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 小西君。

○2番（小西 涼司君） 平成18年6月あたりから有識者、市内各種団体の代表者、保護者及び学校関係者等による上天草市公立学校規模適正化審議会が設置され、話し合いを続けてこられたと思うんですが、この答申が出され、それをもとにこの計画ができ上がったと思うんですけれども、この計画書を読んでみますと、児童生徒の学力向上、人格を養っていくためには集団の中で生活をしなければならないというようなことがうたってあります。少子化の中で、私もこの統廃合は避けて通れないとは思いますが、これを実施していくためにはどうしても地元の理解と協力がなければ、この計画を進めていくのが難しいのではないかという思いでおります。この計画を進めていく上で一番大事なことは、地域の住民の理解とか、あとは通学の手段とか、そういったものの考え方が合ってこないとなかなか先に進まないという思いでおります。住民の理解を得るためにはどうしたら一番いいのか、これは教育委員会の中で話し合いをされてこられましたか。

○議長（渡辺 稔夫君） 教育部長。

○教育部長（鬼塚 憲雄君） 先ほどの答弁の中で、5回ほど地域の説明会をやっておりまして、その結果を受けまして、教育委員会会議の中で議論をしていただきました。反対意見が樋合地区については多かったわけですが、それをどう今後進めていくかということで協議を行ってまいりました。

教育委員会会議の中で、地域の皆さんの気持ちというのは痛いほどわかる、今までの歴史を変えるわけであるから反対をされるのはわかるが、将来の子どもたちのためには統合を行ってほしいという意見。それから、子どもたちが少ない現状、今後の子どもの推移、学校運営面からも統合したほうがよい。それから、子どもたちが成長していく上で団体活動はぜひ必要である、集団の中でお互いに意見を言い合って切磋琢磨していくのがいいのではないかという意見。それから、私たちも教育委員の皆さんと一緒に学校を回るわけですが、学校を回ってみると、人数の多いほうが活気があってよい、授業活動状況を見てもそう感じるという意見。それから、最後ですけれども、同じ学年の友達が多いほうがいいのではないかなどの教育委員会会議の意見が出されております。

その結果を受けまして、委員会の中では、子どもたちのためにどちらが好ましいのか、学校はだれのためにあるのかということで、子どもたちの教育環境を考えた場合には、まだ理解は得られておりませんが、計画どおり統合を進めていただきたいという考えでございます。

以上でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 小西君。

○2番（小西 涼司君） ここに保護者の意見をいただいた資料があるんですが、保護者を代弁して順次質問をしていきたいと思っております。

行政から5回ほど地域に対しての説明会があったということですが、予算のための統合ではないという説明であったと地域の方がおっしゃっておられます。しかし、地域とすれば、少子化だ

けの問題ではなくて予算面のこともあるのではないかというような、地域での説明会の中で質問をされたと思うんですけれども、それに対してどのような回答をなされたのかお聞きしたいと思います。

○議長（渡辺 稔夫君） 教育部長。

○教育部長（鬼塚 憲雄君） 確かに御指摘のように、そういった予算面が一番ではないかというような意見が出されました。ただ、私たち教育委員会の考え方なり、審議会の委員の皆さんの答弁の中では、子どもたちを第一に考えた中で、統廃合だということで、予算面については余り影響ないというようなことで答弁をしております。

以上でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 小西君。

○2番（小西 涼司君） また、説明会においては、統合のメリットが具体的に示されていないということだったんですけれども、具体的な説明、数字的にありますか。統合したときの数字的なメリット。

○議長（渡辺 稔夫君） 教育部長。

○教育部長（鬼塚 憲雄君） 数字的なことは、私たちは説明会の中では言っておりません。先ほど言いましたように、部活動でありますとか、学習面のお互いの切磋琢磨とか、そういったことを報告をしております。

以上でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 小西君。

○2番（小西 涼司君） 地域の方からすれば、学校がなくなるということは地域の過疎化につながっていくようなことも考えておられます。そのような中で、現に学校がなくなるので転居されている方もいらっしゃるということを知りましたし、もし学校がなくなるとすれば、樋合地区の親御さんたちも子どもたちの通学あたりを考えて、これから出ていかれる人もいるのではないかということも考えられます。そうなったときに、地域の過疎化に対する懸念というか、そういった質問等に対しての教育委員会のお考えはどうであられましたか。

○議長（渡辺 稔夫君） 教育部長。

○教育部長（鬼塚 憲雄君） 確かに、地域の活性化がなくなるという意見は大変多かったです。地域の説明会、それから保護者の説明会をやっておりますけれども、特に地域の説明会の中では、そういった意見が大変多かったわけですが、私たちの説明としましては、地域も大事ですが、一番大事なことは子どもたちだということで、子どもたちのことを考えて統合を進めているというような説明をしております。

以上でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 小西君。

○2番（小西 涼司君） 統合問題に対して、もう少し時間をかけて検討することができないのか、この基本計画を見てもみると、2年前より地域住民関係者及び児童生徒の保護者、学校関

係者により統合準備委員会を組織し、協議を行ってもらおう方向で調整するというところでありますが、あと1年後に統合を控え、現在、統合準備委員会というのが設置されているのか、お聞きします。

○議長（渡辺 稔夫君） 教育部長。

○教育部長（鬼塚 憲雄君） 統合準備委員会の設置でございますけれども、これにつきましては、今後設置をする計画でございます。いろいろな問題が予想されます。例えば、通学方法の問題でありますとか、学校の名称でありますとか、校則・校歌、それから、PTAの組織に関することとか、制服もありますし、そういった問題がいっぱいありますので、特に樋合小、今津小の統合につきましては、その後また、教良木小の統合も計画がなされております。そこら辺を踏まえて、校歌とか校名とかいろいろな問題が出てきますし、統合準備委員会は今後できるだけ早い時期に私たちも設置をしたいとは考えております。これにつきましては、現在のところは今津小と樋合小の中での統合準備委員会という形で、今考えております。

以上でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 小西君。

○2番（小西 涼司君） この基本計画の中では、先ほどから申しておりますように、年内より準備を進めるということですので、今現在まだ委員会の組織がなされていない、それと同時に保護者、地域住民あたりに理解を得ていない。今から準備委員会を設置して、1年後の統合に間に合いますか。

○議長（渡辺 稔夫君） 教育部長。

○教育部長（鬼塚 憲雄君） これは、牟田小、姫戸小も同じなんでございますが、それに向けて進めていきたいと考えております。

○議長（渡辺 稔夫君） 小西君。

○2番（小西 涼司君） 先ほど、冒頭に申しましたように、高校再編問題もいろいろ地域からの陳情、要望等も出され、いろいろな協議がなされた結果、基本計画どおりに進んでまいりました。上天草市の小中学校の統廃合問題も、まさしくこの高校再編と同じようなことになっていくのではないかと懸念されると思います。高校再編の計画が発表されたときに、地域としての落胆、まあ、いろいろな思いがあたりだとは思いますが、小中学校においては、まさしく地元の問題であります。ですから、もう少し時間をかけて慎重に、地域の理解を少しでも得られるような方法がないのか。これから平成28年度までに各地区の小中学校が順次統合されていくわけなんですけれども、分校としてはなくなった学校もありますけれども、常にこれから28年度まで統廃合を繰り返していく中で、初めての統合でございますので、今が一番大事なところではないかと思うんです。ですから、スタートを間違っしまえば、後がうまくいかない。ですから、今津小と樋合小、牟田小と姫戸小の統合については、もう少し地域住民の理解を得た上で進めていくのが妥当ではないかと思っておりますけれども、いかがですか。

○議長（渡辺 稔夫君） 教育部長。

○**教育部長（鬼塚 憲雄君）** 御意見、わかる部分もございますけれども、私たちも昨年の6月から説明会を開催しまして、できるだけ地域の方々、それから保護者の方々の御意見を聞きたいということで出向いてまいりました。それを受けて、教育委員会会議の中に図ったわけでございますが、まだ理解をされていない部分が大変ありますけれども、意見というのは今後も聞く必要がありますが、これを先延ばしということは今のところ考えておりません。

以上でございます。

○**議長（渡辺 稔夫君）** 小西君。

○**2番（小西 涼司君）** 理解を得るために、計画をする段階において、地域の代表者、PTAの代表者、学校関係者、まあ学校関係者においては、現在、他の学校に転勤されていると思うんですが、地域住民の方やPTAの代表の方は樋合に住んでおられると思うんです。そういった人たちの協力を得ながら、では、地域住民に対して理解を求めていくようなことはありましたか。

○**議長（渡辺 稔夫君）** 教育部長。

○**教育部長（鬼塚 憲雄君）** そのために、私たちも地域なり保護者なりの方々に説明会をしたという状況でございます。

○**議長（渡辺 稔夫君）** 小西君。

○**2番（小西 涼司君）** 聞くところによりますと、今樋合のほうで存続の署名が行われているということを聞いております。その署名をPTAの組織と、あと地域住民の方々、ほとんどの方がそのようなことで存続を要望されておられるわけですが、地域の説明会の中で、そういった反対意見に対して、いや、これはもう、進めていくべきではないかというような意見が出てきますか。

○**議長（渡辺 稔夫君）** 教育部長。

○**教育部長（鬼塚 憲雄君）** 地域の説明会の中では、先ほども言いましたように、たくさん意見が出たわけでございます。保護者の方からも、本当に厳しい意見をいただきました。ただ、私たちも、先ほども言いましたけれども、今度、また樋合小につきましては、新1年生も入学しないという状況もございます。学校運営面から考えましても、樋合小につきましては22年統合が適当かな、一番いいのかなという気はしております。

以上でございます。

○**議長（渡辺 稔夫君）** 小西君。

○**2番（小西 涼司君）** あと1年後ということで迫っておりますが、先ほどから申し上げますように、次に控えている小中学校の統合がありますので、ぜひともこの問題に関しては、早目早目の対応で今後進めていってもらえるようお願いをしたいと思います。また、樋合小学校につきましては、今現在のところ反対意見はとても多いですので、この反対されている方々から少しでも理解が得られるように、何とかいい方法があれば、そういった方法を検討されながら理解を求めていってほしいと思います。

一つ聞きたいんですけども、平成21年度より樋合小学校では教頭先生がいなくなるということ聞いておりますが、職員体制を教えてくださいませんか。

○議長（渡辺 稔夫君） 教育部長。

○教育部長（鬼塚 憲雄君） 人事面につきましては、教育長が大変苦勞をされておりますけれども、私が聞いた範囲では、今現在、校長、教頭、それから事務職員、それから先生が3名いらっしゃいます。それから、いわゆる県費職員という形で3名の職員がいらっしゃいます。それから市費の職員で用務員、それから給食関係おりますけれども、現在3学級ある学級が2学級に今回なります。複式ですけども。ですから、その中で2学級になりますと、まず教頭がいなくなるということでございます。それから、学校事務の先生もいなくなる。それから、当然、学級が3学級から2学級になりますので、先生も3名から2名に減るということで、今現在、県費職員6名が3名になると聞いています。これはまだ確定ではありませんけれども、そういうふうには聞いております。

以上でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 小西君。

○2番（小西 涼司君） 校長先生と、あと2名の先生だけということですね、予定では。

○議長（渡辺 稔夫君） 教育部長。

○教育部長（鬼塚 憲雄君） はい、そうでございます。

○2番（小西 涼司君） 用務員はおられるんですか。

○議長（渡辺 稔夫君） 教育部長。

○教育部長（鬼塚 憲雄君） 用務員は今までどおり計画をしております。

○議長（渡辺 稔夫君） 小西君。

○2番（小西 涼司君） 一つの学校を運営していく上で、校長先生以下あと2名の先生方ということなんですが、これが適当な人数かどうか私もわからないんですけども、なかなか厳しいのではないかと予想がされます。そこらあたり、何らかの方法で1名補充とかいうことはできないんでしょうか。

○議長（渡辺 稔夫君） 教育部長。

○教育部長（鬼塚 憲雄君） 私たちも3名ということは本当に危惧をしております。本当に学校を3名で運営できるかということは、私たちも大変心配しております。県費の場合は、今言いましたように、もう3名ということで教育長にも話が来ておりますので、何とか市費で事務職員のかわりになるような職員を1名配置できないかということで総務部長とも協議しまして、その方法で1名何とかしたいということで、今協議を進めております。

以上でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 小西君。

○2番（小西 涼司君） ぜひとも、今教育部長から言われたように、事務職員の代行になるような人を1人、市費でも結構ですので置いていただければ幸いに存じます。私もこの統廃合に

については、確かに少子高齢化のこの時代に絶対避けては通れない道だとは思いますが。しかし、地域住民、保護者の気持ちを考えますと、何とか少しでも納得いくような方法で、その計画を進めていただきたいという思いでおります。よろしくお願いたします。

続きまして、2番目の、職員の派遣についてお聞きをしたいと思います。合併時から県とか国あたりで派遣をされておると聞いておりますけれども、その状況をまずお聞かせください。

○議長（渡辺 稔夫君） 総務部長。

○総務部長（川本 一夫君） 年度ごとに申し上げてよろしいでしょうか。

○2番（小西 涼司君） はい。

○総務部長（川本 一夫君） 平成17年度、福祉事務所及び私学文書課に計2名派遣しまして、それぞれ現在は、福祉課と総務課に配置しております。それから18年度は、市町村総室と熊本大学の政策創造研究教育センターにそれぞれ1名ずつ2名、1名は企画政策課、あとの1名は自己の都合により退職されております。それから平成19年度は熊本県の税務課に1名派遣いたしまして、現在は納税課に配置されております。これが現在までの状況でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 小西君。

○2番（小西 涼司君） 平成19年度は1名でよろしいですか。

○議長（渡辺 稔夫君） 総務部長。

○総務部長（川本 一夫君） はい、そのとおりでございます。

○2番（小西 涼司君） 20年度から5名になったわけですね。

○議長（渡辺 稔夫君） 総務部長。

○総務部長（川本 一夫君） はい。20年度は国のほうに1人、それから県のほうに4名、合計で5名でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 小西君。

○2番（小西 涼司君） 過去、16年度から19年度までについては、今、配属先あたりも説明がありましたけれども、効果について教えてください。

○議長（渡辺 稔夫君） 総務部長。

○総務部長（川本 一夫君） 合併いたしまして、それぞれ法律の専門、福祉の専門ということで派遣先を決定してございまして、現在それに準じた形で各課に配属されております。私の印象では、いつも申しておりますが、派遣したことによって、その方は1.5倍から2倍の力を発揮されて、現在業務に当たっておられます。これはすべてでございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 小西君。

○2番（小西 涼司君） 平成21年度の予算を見てみますと、職員派遣負担金2,347万2,000円ということで予算も上がっております。この予算の中身、内訳、わかる範囲で結構ですので教えてください。

○議長（渡辺 稔夫君） 総務部長。

○総務部長（川本 一夫君） 主にこれは給与でございます。

- 議長（渡辺 稔夫君） 小西君。
- 2番（小西 涼司君） 給与ということですね。交通費、アパート代とか、そういったものも含まれていますか。
- 議長（渡辺 稔夫君） 総務部長。
- 総務部長（川本 一夫君） はい。部屋を借りる場合は規則に基づきまして、総額に対してのパーセントが決まっておりますので、その額はお支払いしております。
- 議長（渡辺 稔夫君） 小西君。
- 2番（小西 涼司君） はい、わかりました。平成20年度、5名の方が派遣をされておられ、このうちの4名が近く帰ってこれられると思うんですけども、せっかく派遣され勉強をされてきたのならば、配属先は慎重に審議をされて、適材適所というか、ぜひとも上天草市市役所のレベルアップのために配属先をよく考えてやっていただきたいと思います。職員を派遣する際に、まずは希望をとられると思うんですけども、派遣する人たちの選考というのは、どういった方法でやられていますか。
- 議長（渡辺 稔夫君） 総務部長。
- 総務部長（川本 一夫君） これは、全職員を対象に、すべての職員について掲示板等で連絡して、それから今回はこういうふうは何名予定していますと。そして、希望がありませんかということで対象を拾い上げて、それから本人の希望をもとに選考をしております。
- 議長（渡辺 稔夫君） 小西君。
- 2番（小西 涼司君） 私がちょっと聞いたところによりますと、なかなか自分から希望して行きたいと言う職員が少ないということですが、いかがでしょうか。
- 議長（渡辺 稔夫君） 総務部長。
- 総務部長（川本 一夫君） 実は、19年度は職員の希望は、正直申し上げましてございませんでした。ただ、20年度につきましては、ほぼ満員に満たる希望がございました。
- 議長（渡辺 稔夫君） 小西君。
- 2番（小西 涼司君） 21年度から派遣される職員ということですか、今言われたのは。
- 議長（渡辺 稔夫君） 総務部長。
- 総務部長（川本 一夫君） 申しわけありません。年度を1年間違えていました。20年度は、実はいろいろな課の統廃合とかがあったり、職員削減があった関係もあったんでしょうけれども、希望がなかったわけです。ただ、21年度につきましては5名を予定しておりましたが、ほぼ皆さん希望があったということで御理解いただきたいと思っております。
- 議長（渡辺 稔夫君） 小西君。
- 2番（小西 涼司君） 希望がなかったとしても、執行部のほうで個人個人をピックアップしながら、人材を見ながら、多分白羽の矢が立つというか、そういった感じをお願いをされると思うんですけども、逆の立場から考えると、そうやって声をかけられた職員というのは、それだけ期待をされていると思うんです。それで、本来であれば自分から希望して行ってもら

のが一番学習意欲もわくだろうし、いいと思うんですけれども、もし希望がなかったときは、各部署で、あの人だったら勉強に行つて将来有能になるといったあれがあるので、各部署で推薦方式みたいなことは考えておられませんか。

○議長（渡辺 稔夫君） 総務部長。

○総務部長（川本 一夫君） もしも希望者が定員に満たなかった場合は、今申し上げたような方式で私たちのほうからある程度人選をしまして、それを直属の課長に相談をするケースがございます。ただ、どうしてもその場合は、一応課長と相談してから決定するものですから、基本的にはすべてそのスタンスでございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 小西君。

○2番（小西 涼司君） ある職員から聞いたんですけれども、平成21年度、勉強に行つてこないかということで、まず声をかけられた。本人とすれば、私は結構ですというようなことで思いがあったと言うんです。しかし、希望する職員が少なかったのかわかりませんが、再度行つてくれないかというようなお誘いを受けて、現在のところ出向するような形で決まっているということを聞いております。ですから、この問題も本人の理解というのがまず大事なことでないかと思うんです。ですから、先ほどから申し上げておりますように、まず本人の希望と、あとは課のほうで推薦し、本人の同意も得た上で、理解を得た上で派遣を行つてほしいというのが本当の気持ちです。このことについて、どうでしょうか。

○議長（渡辺 稔夫君） 総務部長。

○総務部長（川本 一夫君） 方法については全くそのとおりでございますが、先ほど2回ほど要請されたということでございますが、そういうケースもございます。ただ何名かあったんですが、本人がどうしても家庭の都合とかでできなくなるケースも、20年度も21年度もそういうことは発生しております。

○議長（渡辺 稔夫君） 小西君。

○2番（小西 涼司君） 相互派遣というのがあると聞いたんですけれども、今、国と県のほうから何名ずつ来られていますか。

○議長（渡辺 稔夫君） 総務部長。

○総務部長（川本 一夫君） 現在は国、県からは今のところは来ておりません。ただ21年度には予定をしております。

○2番（小西 涼司君） はい、わかりました。せっかくの職員派遣でありますので、帰ってきたら能力を十分に発揮できるような配属と。あと、人選においては、先ほどから申し上げましたように、課、部での推薦方式あたりをとっていただければ、本当に将来の上天草市の職員のレベルアップにつながってくると思いますので、ぜひ今後そのようなことを検討されながら人材の育成に努めてほしいと思います。

時間も大分余りましたけれども、これをもって私の今回の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（渡辺 稔夫君） 以上で、2番、小西涼司君の一般質問は終わりました。

ここで、10分間休憩いたします。

休憩 午後 1時35分

再開 午後 1時47分

○議長（渡辺 稔夫君） 休憩前に引き続き、再開いたします。

5番、川口望君。

○5番（川口 望君） こんにちは。5番、会派みらい、川口望です。

きょうは久しぶりに、今までずっと一般質問中、午後だったんで傍聴者がなかなかいない中で、やりがいのない一般質問が続いたんですけれども、きょうは非常に傍聴者が多くて、できればあと二、三点通告をしておけばよかったと思った次第でありますけれども、今回1点、雇用対策について質問していきたいと思っております。

今、時期的に人と会う機会が多すぎて、集約してみると一番多かったことを今回通告しようと思ひましてこの案件になったわけですが、今回アメリカの金融危機に端を発して、国内の自動車メーカーを初め大手メーカーの派遣カット、また我が市でもヤマハの派遣切り、田崎真珠の撤退と身近に不況の波が押し寄せてきており、大変深刻な問題だと私自身とらえております。また、我が市にとって、この雇用不足というのは不況以前より慢性的な問題であり、景気回復後であっても常につきまとう問題でもあると思ひます。そこで、雇用対策としては、一時的カンフル剤的な対策、また中長期的な対策を市として計画していくべきだと思ひております。

では、早速質問に移りますけれども、1点目、市内の失業者数と今後の見通しについてお聞きいたします。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） お答えいたします。

本市の失業者に関しましては、昨年12月時点では全体で402人。男性、女性の内訳を申しますと、男性が215人、女性が187人でありました。ことしの2月現在では、全体で460人、男性が244人、女性216人となりまして58人が増加し、内訳といたしましては男性29人、女性が29人でございます。昨年よりパーセントといたしまして13%悪化しております。年齢別につきましては、12月時点で44歳以下217人、45歳から54歳102人、55歳以上83人でありまして、2月現在では44歳以下231人、45歳から54歳97人、55歳以上132人で、44歳以下が14人の増加、45歳から54歳が5人減少、55歳以上が49人の増加となっております。

今後の見通しにつきましては、大変予想が難しい問題ですが、急激な経済の回復が見込めない場合、本市の雇用状況も悪化すると予想しております。今後の経済状況を注意深く見守っていきたく思ひております。

○議長（渡辺 稔夫君） 川口君。

○5番（川口 望君） ここ2カ月で約60名の失業者がふえたということで、今後もっとさらに急速に失業者というのはふえていく見込みがあると思うんですけども、ここで続いて、現在の市の雇用対策と成果についてお聞きします。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） お答えいたします。

先ほど言われましたように、昨年の9月から急激な世界及び日本経済の悪化に伴いまして、本市経済も打撃を受け危機的状況下で、12月19日には上天草市緊急雇用対策本部を設置いたしました。対応策をその中で検討してきております。そこで、商工観光課内に緊急相談窓口を設置いたしまして、契約社員の契約解除や正社員の解雇等の失業者の相談に対応いたしております。実績といたしましては、相談者が2名でございました。次の施策として、市内の10人以上の271事業所に緊急アンケート調査を実施しまして、雇用の状況と21年度までの雇用計画などを調査しております。

また、国の雇用支援事業であります、ふるさと雇用再生特別基金事業や緊急雇用創出事業を活用して、失業者の雇用対策に取り組んでおります。なお、両事業とも平成21年度から実施しまして、ふるさと雇用再生特別基金事業で12人が採用予定です。また、緊急雇用創出事業では、一時的ではありますが、18人が雇用される予定です。その予算といたしましては、全額が国の交付金によります県の基金でございまして、事業費全額がこれによりまして支出されます。上天草市といたしましては、ふるさと雇用再生特別基金事業に2,072万9,000円、また緊急雇用創出事業に1,354万円を21年度補正予算として計上いたしております。

以上でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 川口君。

○5番（川口 望君） これは、問い合わせが2件だったということで、余り周知徹底できていなかったのかという気がするんですけども、ちなみにこの2件の内容というのを教えていただいてもよろしいでしょうか。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） 申しわけありませんけれども、相談の内容については把握しておりませんので、ございましたら後ほどお答えをいたしたいと思っております。

○議長（渡辺 稔夫君） 川口君。

○5番（川口 望君） この状況の中ですから、もう少しこういった部分の周知徹底をしていただきたいというのがあります。今後もこの緊急雇用対策本部というのは継続していくんですね。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） 今現在も緊急雇用対策本部は設置中でございますし、必要ならば必要な期間、設置していくつもりでおります。

○議長（渡辺 稔夫君） 川口君。

○5番（川口 望君） はい、わかりました。

これも、今回、組織再編等いろいろありますけれども、雇用に関しては私自身、企画観光のほうで、こういった窓口があってもいいかという気も多少しました。それが、宇城市あたりが企画部雇用対策課という課があるんですけれども、これは企業誘致係と雇用対策係という二つの係があるんですけれども、非常に雇用と企業誘致というのは密接な関係があると思ひまして、スピーディーに対応できるような形じゃないかと私も思ひましたんで、振興部も組織再編がありますけれども、こういったスピーディーな対応ができる行政の組織改革というのも今後必要ではないかと思ひます。

続きまして、今後の対策についてお聞きします。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。今後の対策について。

○企画観光部長（村田 一安君） 先ほども述べましたけれども、失業者への相談対応やハローワークの活用などを指導し、また現在取り組んでおります事業などを継続しながら、国の雇用支援事業であるふるさと雇用再生特別基金事業や緊急雇用創出事業を平成23年度まで活用しまして、失業者の雇用対策に取り組んでいきたいと考えております。また、市内経済の動向を的確に把握し、必要であれば各商工会と連携をとり、地元企業と対話しながら雇用確保を図る施策を実施しなければならないと考えております。

○議長（渡辺 稔夫君） 川口君。

○5番（川口 望君） 先ほどの答弁で、10人以上の271事務所に緊急アンケート調査を実施したという答弁がありましたけれども、事業所の求人内容というのは現状、今はどうでしょうか。お聞きします。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） 271事業所につきましてアンケートをしましたけれども、雇用につきましては非常に厳しい状況でございます。なかなか雇えないというアンケート結果でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 川口君。

○5番（川口 望君） 早急に雇用対策というのは取り組まないといけないと思うんですけれども、今回の21年度の補正予算で緊急雇用対策は上がってきておりますけれども、これが短期的な雇用対策というのは感じております。実際、22年度、23年度では、また予算あたりも減額になって、今大体計30名でしょうか、雇用が確保できるとしても、まだその先不透明な部分というのもあると思ひます。それで、この緊急雇用対策以外にも市として中期または長期の計画等も今後いろいろ対策を立てていかななくてはいけないと思ひております。そのことに関して、市長はどういった考えでおられるでしょうか。

○議長（渡辺 稔夫君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 雇用対策というのは、今後とも重要な課題になってくると思ひております。私どもが設置しました緊急雇用対策本部については、昨年12月に設置いたしまして、

市の雇用動向の推移を見守っているところでありますけれども、時期を追うごとに悪化しているのは紛れもない事実でございます。市としてどのような方策をもって雇用を維持する、また創出するかというのが、今後のテーマだと思っております。その中で、国のふるさと雇用再生特別基金事業、そして緊急雇用創出事業、この二つの事業を通じまして、現在、雇用維持に取り組んでいるところであります。それ以外にも、現在、休耕田の開発事業という点で新たな農業法人設立とか、また午前中申し上げましたぐるなびに関する流通システムも考えられますけれども、そういった点で、市も雇用対策事業に力を入れていきたいと思っております。

○議長（渡辺 稔夫君） 川口君。

○5番（川口 望君） 現時点、計画段階ということです。早急にこれは取り組まないと、雇用対策以上に失業者というのは、現状ふえていくのが目に見えてわかります。これも、いろいろ予算の関係あたりもあって、ちょうど予想しなかった不況というのも絡んできまして、また中央からの派遣切りの方も地方で受け入れをしないといけないという状況。逆に、人口がふえると考えた場合は、雇用というのが地元で創出できれば何とか人口増も考えられるのかという思いも私はあります。

これは、私がけさパソコンを見ていたら見つけたんですけれども、厚生労働省のホームページで地域提案型雇用創造推進事業という事業があります。パッケージ事業という形で呼ばれていると思うんですけれども、こちらの内容を見てみると、非常にこの上天草地区あたりも、いろいろ計画を上げていけば採択される部分もあるんじゃないかというのを感じました。こちらが、雇用機会が少ない地域において雇用創造に自発的に取り組む市町村、地域の経済団体等から構成される協議会が提案した雇用対策の事業の中から雇用創造効果が高いものを選抜し、当該協議会等に対し、その事業の実施を委託するという地域提案型の事業なんですけれども、これが採択になれば大体3億円から6億円の助成が来ると。期間的には3年ですけれども。こういった国のいろいろな事業を生かして、今後も雇用拡大という面でいろいろ計画も立てられるんじゃないかと感じたんですけれども、そこらあたりについてはどうでしょうか。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） 先ほど、この厚労省の地域雇用対策の創造推進事業につきまして、こういうのもあるということで川口議員のほうからお示しをいただきまして調べてみましたところ、地域雇用を図るため厚労省が支援しております。これにつきましては、先ほど言われましたように商工会、中小企業団体、商店街、農協などが設立して地域再生計画を作成して認定を受ける必要があるということでございます。認定を受ければ、1地域当たり単年度で2億円ということで私たちのほうでは把握しておりますが、3年未満の継続して委託が受けられるということでございます。現在、県内では宇城市だけが実施をしていると聞いております。委託料といたしましては、3年間で6,300万円を受けて実施をしているとお聞きしております。

21年度募集につきましては、2月で募集が完了しているそうでございます。この事業を導入しない理由といたしましては、現在本市におきましては企業誘致課で、県事業の南部地域の雇用

推進対策として熊本県産業雇用創出事業というのを県のほうから委託を受けて実施していると。委託料といたしましては、今年度420万円だそうでございます。これにつきましても、協議会を設立して委託事業を受けていると。それで、先ほどの地域雇用創造推進事業、新パッケージ事業を創設しますと、協議会委員とか関係団体が混乱する。大体同じような事業だそうでございます。混乱する恐れがあるということで今回は見合わせております。

次に県の、今言いました熊本県産業の雇用創出事業が終了後、そのノウハウを生かしてどの産業に重点を置いて雇用促進を図るかを示す地域再生事業を作成することができるメリットと、地域経済と一体となった計画ができると思われることが2点目に考えられます。また、この新パッケージ事業導入につきましては、県の労働局の話ですけれども、専従の係が必要になるというふうにも聞いております。

そういうようなことで、先ほども言いましたように、熊本県産業雇用創出事業から地域雇用創造推進事業、今言われた新パッケージ事業へ移行したほうがスムーズに事業の推進が図られるというようなことでございますので、現在のところ、その事業を見合わせているという状況でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 川口君。

○5番（川口 望君） 県の産業雇用創出事業はセイタカアワダチソウか何かのあれだったでしょうか。詳しい内容を説明していただいてもよろしいでしょうか。

○企画観光部長（村田 一安君） 中身につきましては、企業誘致課のほうで推進しておりますので、よかったらそちらのほうから説明をお願いします。

○議長（渡辺 稔夫君） 経済振興部長。

○経済振興部長（山下 幸盛君） 地域産業雇用創出協議会の概要でございますが、少子高齢化、過疎化が深刻、また雇用情勢の格差拡大、後継者不足による地域産業の低迷等の上天草地域の現状の打開を課題としまして、地理的に不利な条件下にある、工業用地などに利用可能な土地がない、地場産業の連携がない、情報交換等の場がない、地場産業における雇用の場が少ない等の打開策としまして、上天草地域産業雇用創出協議会を設立をしております。この事業の展開でございますが、企業誘致事業につきましては、関東・関西天草郷友会への参加――。

○議長（渡辺 稔夫君） 川口君。

○5番（川口 望君） その中身の説明だけでいいです。

○議長（渡辺 稔夫君） 経済振興部長。

○経済振興部長（山下 幸盛君） いえ、中身の説明でございますが、一応、地域産業雇用創出事業の概要を申し上げているところでございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 川口君。

○5番（川口 望君） そうですか。では、続けていただいてもいいです。余り長いもんで。

○経済振興部長（山下 幸盛君） 先ほどの続きでございますが、企業誘致事業につきましては、関東・関西天草郷友会への参加、情報の収集でございます。また、地場企業訪問、連携、地元

不動産等との協力、企業経営者のリストアップと交流。また、地場産業の振興事業でございますが、新分野展開への支援です。それと、地域連携の強化が地域産業雇用創出協議会事業の概要でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 川口君。

○5番（川口 望君） 内容が全然理解できなかったですけども、私が聞いたかったのは、こういった事業で例えば雇用がこれだけ見込まれるといった内容ですけども。

○議長（渡辺 稔夫君） 経済振興部長。

○経済振興部長（山下 幸盛君） 現在取り組んでおりますのが、松島地域の耕作放棄地の再生に向けたプロジェクト協議会を開催しております。その中で、現在4回の会議を設けまして、現在、県企業立地課を初めとした県関係者の方々と農林水産課、また企業誘致課、それに関係課が集まって、耕作放棄地にどのような作物が適しているか等の協議をしているところでございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 川口君。

○5番（川口 望君） これは結局、農家のボランティア活動みたいな一環と考えてよろしいんでしょうか。

○議長（渡辺 稔夫君） 経済振興部長。

○経済振興部長（山下 幸盛君） これにつきましては、建設業等の異業種の農業参入等も見込んで協議をしているところでございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 川口君。

○5番（川口 望君） 予算が430万円だったのでしょうか、建設業等の異業種参入ということで、話を聞いていれば単独事業みたいな感じの雰囲気を受けるんですが、そういった部分と、例えばさっきのパッケージ事業、これは事業として進めても全然問題ないと思うんですけども、予算的に見たらどうでしょうか、財政課長。予算的には国庫事業のほうが予算の配分というのは、例えば宇城市でやられている分が6,300万円と、額は約1けた違うというところでは、市としても、こういった事業を計画するに当たってはなるべく高額な予算の獲得に向けて執行部あたりも全力でしていくべきだと思うんですけども、そこら辺でこういった計画の策定の部分は、財政課長としてはどうお考えでしょうか。

○議長（渡辺 稔夫君） 財政課長。

○財政課長（永森 良一君） 突然の質問ですので的を射ているかどうかはわかりませんが、最も有効な方法でやるべきだろうと。それで、今のやりとりを聞いていますと、宇城と比べて少額だという部分での御指摘だと思いますが、そのときの状況によって、あるいは事業の内容によって投資したときに一番効率的な部分が発生するような予算措置は当然必要だと思っております。

○議長（渡辺 稔夫君） 川口君。

○5番（川口 望君） わかりました。私もちょっと内容を聞きまして、では、続いて企業誘

致の見直しに質問移りますけれども、せんだって市長の答弁でもあったとおり、企業誘致もしくは地場産業振興の比率は変わってきていると。当初、市長が就任されたときに、10年で30社500人といった数を立てておられますけれども、実際に市長の就任後にこういった世界的不況が訪れたということで、これならできるといった具体的な数値の見直しというのは考えておられますでしょうか。

○議長（渡辺 稔夫君） 経済振興部長。

○経済振興部長（山下 幸盛君） 今、市長より10年間で30件の企業の誘致、また500人の雇用を言われておりますが、現在、企業誘致課におきましては、10年間での計画に向けて企業誘致課職員が頑張っているところがございます。現在の状況でございますが、1年、2年目といいますと、本市の企業誘致に対する熱意あるいは取り組み等の情報の発信、また都市圏企業の情報の収集等がまず第一ではないかと思っております。

以上です。

○議長（渡辺 稔夫君） 川口君。

○5番（川口 望君） 具体的な数値を立ててから追っていかないと、なかなか方向性が定まらないような気も私もしましたもので。実際に私たちも、今さっきも言いましたように、人と会う機会が非常に多いものですから、企業誘致課ができたんだろうといった言葉もたくさんいただきます。その上で、企業は来たんですかと。いえ、1社は誘致課以前に来ているけれども、それ以降はまだ準備段階ですと。それで、名前が企業誘致課という名前ですから、どうしても市民たちは勘違いします。勘違いではなくて、企業を誘致するものだとしか考えないわけです。それについて、例えば予算は幾らかと。それで、予算はことしはこれだけですと説明した場合、それだけの予算を投じて、企業は何で来ないのかといった部分は、私たちも言われるんです。確かに、この不景気の流れもあって、企業あたりもなかなか参入しづらい部分というのは非常に強いと思います。ただ、一たん、企業誘致課という名前がついたからには、企業誘致に向かって全力でしていただきたいと。前回の一般質問で、そのために出張旅費あたりもつけていただいと、私も質問をしたと思うんです。ですから、ここは再度計画の見直しも要るんじゃないかといった部分は非常に感じております。

それで、振興部長の答弁の中でもそうですけれども、さっきの県の事業にしても、企業誘致課がすることなのかというのは今非常に感じました。それは、部は同じですけれども誘致課ではなくて、農水課でやるべき仕事ではないかというのは非常に感じております。ですから、そういった部分も含めてこの誘致課に関しては、私も物すごく期待をしております。ですから、多少は私、当初と減らしてもいいと思うんです。何とか確実な1社というのをまず第一に追求して誘致していただきたいと思っております。

では、次の質問に移ります。一次産業を受け皿とした雇用の創出について。全国的にハローワークを通じた1月の農林漁業への就職件数というのは1,423件と、前年度に比べれば6割増加しているという新聞の内容ですけれども、一次産業についての雇用の場というのは、需要も非

常に高まっていると思います。それを踏まえて、受け皿とした計画はないのか、お聞きいたします。

○議長（渡辺 稔夫君） 企画観光部長。

○企画観光部長（村田 一安君） お答えいたします。

今回の急激な不況によりまして、失業者が増加しているわけでございますけれども、失業者を支援するために産業を越えた緊急的な雇用対策が必要と考えております。今先ほど川口議員からありましたように、失業者が農業や漁業に就職先を求めている事例は、全国では非常に多くなっているということでございますけれども、本市の場合は、漁業はともかく、大規模農家、また農業法人などが少ない状況でございますので、少数の雇用は可能かと思っておりますけれども、多数の雇用の確保に向けたところは厳しいと思っております。そのために、各種関係機関の協力を得ながら、1人でも多くの雇用創出に向けた取り組みを図っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（渡辺 稔夫君） 川口君。

○5番（川口 望君） いろいろ問題もあると思うんです。特に、求人者というのは、今、仕事は何でもいいという状況ではありませんから、なかなか、農業関係あたりも選ぶ側としてははじかれる部分もかなりあると思います。それで、仮に一次産業の雇用の受け皿として、市として推進していくことといえば、まず第一に法人化の推進、これが第一に来ると思います。漁業に対しては、先ほど企画観光部長も言われたとおり、なかなか難しいという部分で、まずはおかからということ。

続いて、休耕地対策。これも先ほど、市長の答弁でありましたとおり、ぜひ率先して進めていただきたいことでもあります。あとは、就学営農とか基盤整備、イノシシ対策あたりも形を変えれば雇用の創出にもなっていくかという気もいたしております。こういった時代ですから、執行部あたりもずっと言われているとおり、地場産業の育成、特に経済振興部あたりが一丸となって、そういった部分に取り組んで、横との連携がとりやすくなった分、なお一層推進していただきたいという気持ちがあります。

とにかく、そういった市民の声が一番多いというのを執行部の皆さん方も再認識していただいて、例えばあしたから、では役所をやめてくれと言われてみてください、執行部の皆さん方。実際どう考えるかというところです。ですから、市民の皆様方というのは、それを身近に感じておられるわけです。公務員だからそういったことはないとは考えずに、市民と同じレベルで、目線で、あすは我が身だと思って仕事を見つけてください。特に、企業誘致課、経済振興部、仕事を見つければ自分たちのいすがなくなるといった意気込みで頑張っていて、今の失業者数、約460名を1日でも早く雇用として迎えらるような政策をとっていただきたいと思っております。

それでは、私も23分余りでしたが、これで質問を終わらせていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。

○議長（渡辺 稔夫君） 以上で、5番、川口望君の一般質問が終わりました。

以上で、本日の議事日程は終了いたしました。

あすも午前10時から一般質問を行います。

本日はこれにて散会いたします。

散会 午後 2時25分